

優秀賞

生活施設
(九州・沖縄地区)

芦北町 地域資源活用総合交流促進施設



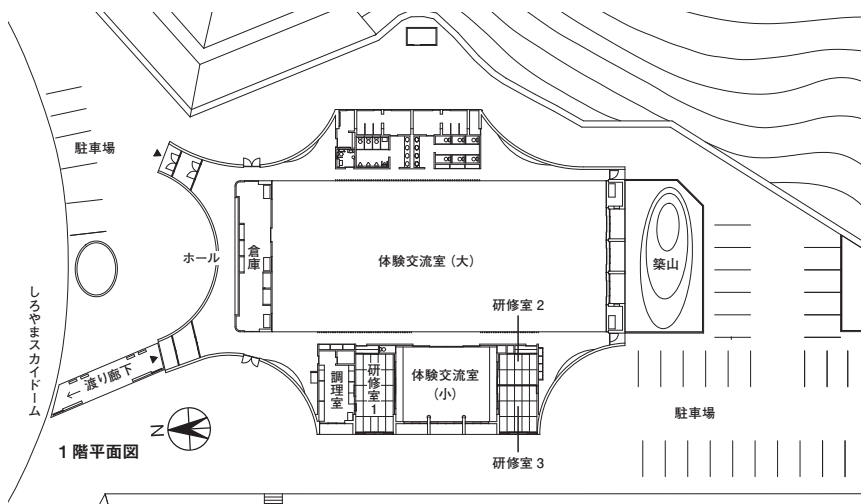
北東側のアクセスより見た外観



体験交流室（大）内観



体験交流室（小）内観



所在地	熊本県葦北郡芦北町大字花岡 1523
敷地面積 (m ²)	95,706.00
建築面積 (m ²)	1,440.78
延床面積 (m ²)	1,440.78
構造/階数	RC、一部 W / 地上 1
事業者	芦北町
設計者	(有)ワークステーション
施工者	松下・佐藤建設工事 JV
竣工年月	2009 (平成 21) 年 1 月
総工事費	440 百万円

本施設は、熊本市の南部、水俣市に近い不知火海に面した芦北町に、既存のスカイドームという大きな体育館兼イベントホールに隣接して建設された。スカイドームでの活動を補うほか、小規模のイベントに対応する。

屋根の形態は、スカイドームとの関係性を考慮し設計されており、芦北町の伝統的な「うたせ船」が不知火海の潮風を受けて帆を広げたところをイメージしている。

限られた敷地の中で、2つの施設がばらばらな印象とならないよう、また芦北町の木材をどのように活用するかなどハードルの高い設計条件を、役場全体と設計者を始めとする関係者が一体となり、この施設を地元の資源として完成後どのように活用していくのかを含めて、熊本アートポリスのテーマに則り、丁寧に対話を重ねながら事業を進めている。

地元木材を始め、県産木材を最大限に生かし、木の力強さと柔らかさを感じられる「木材を竹かごのように編んだ構造」という、例がきわめて少ない新技術を採用しながら快適な空間を作り上げている。

開館から7年が経過し、スポーツを中心とした様々な活動に利用され、新たな交流拠点の一つとなっている。

小さくてもここにしかないもの

地域資源活用総合交流促進施設は、農林水産、建設、教育の3部門が一体となって取り組んだ結晶である。

うたせ船が風を受け「帆」を張るイメージで、屋根をドーム形状とした構造は、県産材のスギ集成材を竹かご状に編んだ日本初の一先駆的構造で、町長が目指される「小さくてもここにしかない」オンリーワンを実現した。

隣接する町民総合センターとの調和によりスポーツ・文化など様々なイベント開催に大きく貢献し、宿泊機能を有していることと相まって、町内外の交流人口増加に寄与している。

開設から7年、今後も人と人とを繋ぎ続けることを願ってやみません。

(宮下祐一・芦北町教育委員会 生涯学習課 課長)